

男女共同参画トップセミナーを開催しました

沖縄科学技術大学院大学副学長の久保真季氏を講師に迎え、平成25年11月18日(月)、「男女共同参画の着実な推進に向けて」と題して、大学における男女共同参画推進の必要性についてご講演いただきました。

このセミナーは、例年、学長以下役職者を対象に実施してきましたが、今年度からは、事務系幹部職員や各部署の学科長も受講対象に拡大しました。

国内外の男女共同参画のデータ、男女ともに大多数の人が女性に対する無意識の偏見を持っているというアメリカにおける調査結果や沖縄科学技術大学院大学での教員採用活動事例も交えながら、特に科学技術分野における女性の活躍促進について、その施策や課題について詳しくお話しいただきました。

講演後の質疑応答では、学長や理事、学部長等から、女性研究者を増やすための他大学の取組の詳細や、本学が検討しようとしている取組についてのアドバイスを求めるなど、大きな関心が寄せられました。



学部別セミナーを全学部で実施しました

各学部の状況に応じた意識啓発セミナーを、教育福祉科学部は12月9日、経済学部は3月4日、医学部は2月21・22日の2日間、工学部は12月11日に開催しました。紙面の都合上、工学部と医学部のセミナーの一部をご紹介します。各学部で実施したセミナーの詳細い内容については、当室のHPをご覧ください。

工学部

「今、ここから、未来をつくる」

(株)東芝 社会インフラシステム社 自動車システム統括部参事の瀧澤由美子氏をお招きし、教員対象と学生対象の2つのセミナーを開催しました。

講師ご自身のキャリアを踏まえながら、教員対象セミナーでは、男女を問わず企業が求める人材についての講演を、学生には、企業での研究開発の進め方や大学で何を学んでおくべきかなど、身近な話題を盛り込んだ内容に講演後には活発な質疑応答が交わされました。



医学部

「共働き夫婦の泣き笑い人生 ～ある医師夫婦がめざした世界～」

藤巻高光先生(埼玉医科大学医学部脳神経外科教授)・藤巻わかえ先生(女子栄養大学栄養学部教授)ご夫妻による講演会と座談会を開催しました。

講演は、仕事と家庭の両立について、ご夫妻の掛け合いというユニークな形で進められ、翌日の座談会では、参加者一人ひとりからのキャリア継続への不安や疑問について、真摯に向き合い、顔を見合わせながら返答するご夫妻の姿に、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれていました。



F a b u l o u s な 大 学 人 を 応 援 す る 男 女 共 同 参 画 推 進 a t 分 大 (2)

大分大学で推進する「男女共同参画行動計画(第2期)」の中で、両立支援部門が担当する「家庭生活と教育・研究・就業との両立」を支援する環境整備に向けて、昨年11月全教職員を対象にアンケート調査を行いました。旦野原キャンパスでは「保育所設置等及び相談体制検討のためのアンケート調査」を実施、質問票を対象者590名に配布し、341名から回答を得ました(回答率57.8%)。挾間キャンパスでは「相談体制検討のためのアンケート調査」を実施、対象者1,689名(附属病院職員含む)中、1,222名から回答を得ました(回答率72.4%)。以下に調査結果の一部をご紹介します(現在報告書を作成中です。当室HPにも掲載を予定しています)。

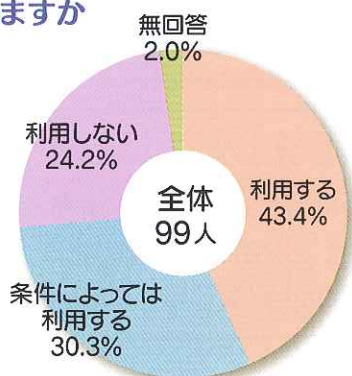
●「保育所設置等及び相談体制検討のためのアンケート調査」・「相談体制検討のためのアンケート調査」への回答

保育所設置等の検討のための調査への回答

旦野原キャンパス

回答者341名の中で、未就学のお子さんをお持ちの方と近い将来お子さんをお持ちになる希望・予定のある方は合わせて99名、小学生のお子さんをお持ちの方は58名でした。これらの方に旦野原キャンパスでの保育所設置等についてお答えいただきました。

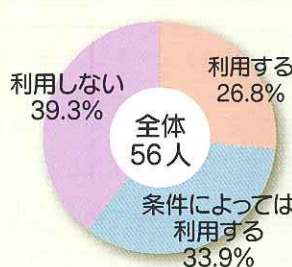
Q 旦野原キャンパスに保育所が設置されたら利用しますか



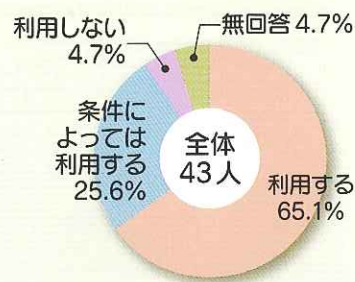
全体の43.4%にあたる43名が「利用する」と答え、「条件によっては利用する」と答えた30名と合わせ、全体の7割に利用の希望がある。ただし希望者は、現在育児中の方よりも、近い将来に育児される予定の方に顕著であった(右グラフ)。また、利用の条件としては、保育料や保育時間(短期・一時預かり、延長保育等)、保育環境の良さ、病児保育等が挙げられている。

【参考】

未就学のお子さんを持つ方



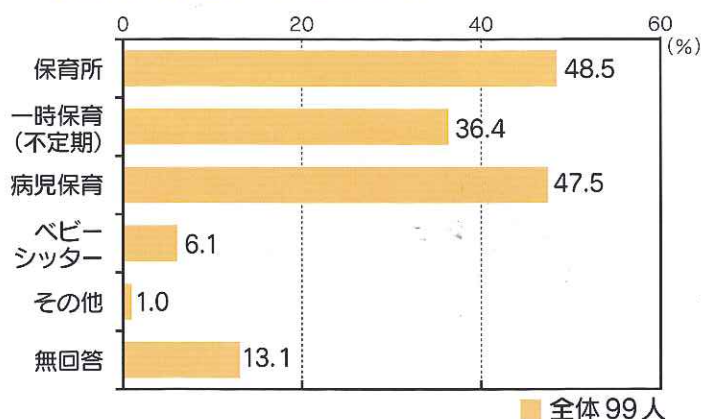
これからお子さんを持つ希望・予定の方



— 旦野原キャンパスでの保育所設置について —

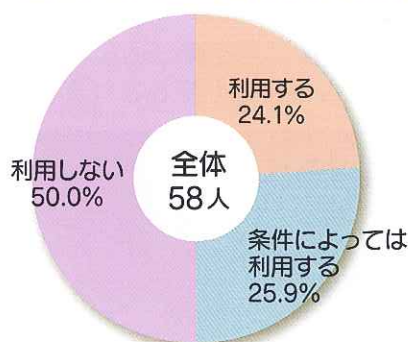
保育所について一定のニーズがある一方、利用希望者は、現在すでに育児中の方よりも、これから育児される予定の方に顕著でした。このため、旦野原キャンパスでの保育所設置については、今後も引き続き、具体的に各種の課題を調査しつつ、ニーズと利用条件との折り合い等を見極めながら慎重に検討していくことにしています。

Q 大学からの保育支援として強く希望するものを教えてください(複数回答可)



全体の半数近くが保育所、病児保育を望んでいる一方、ベビーシッター支援を希望する方は6.1%(6名)にとどまった。

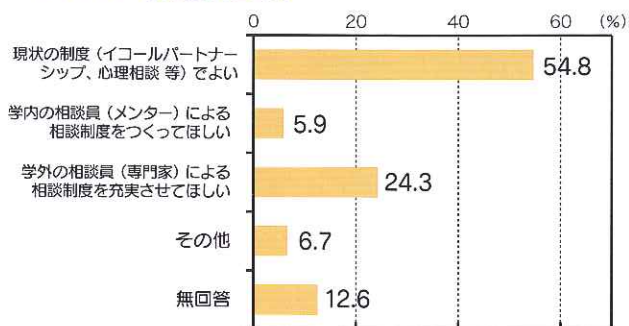
Q 旦野原キャンパスで学童保育が開始されたら利用しますか(小学生のお子さんをお持ちの方に)



全体の24.1%にあたる14名が「利用する」と答え、「条件によっては利用する」と答えた15名と合わせ、全体の半数の方に利用の希望がある。利用の条件としては、夏休み・冬休みの長期休暇中、保育時間、送迎等が挙げられている。

巨野原キャンパス

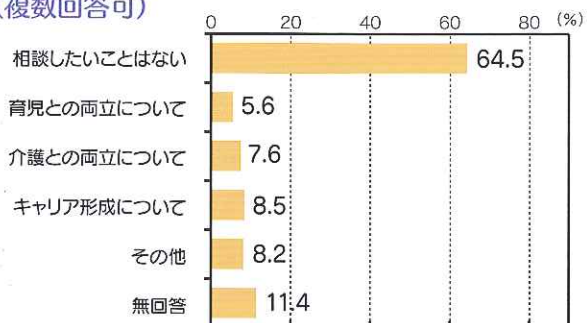
Q 仕事をする上の「悩みや問題点」の相談体制について (複数回答可)



■ 全体 341人

全体の半数が現状の制度でよいと答えているものの、24.3%に学外の相談員 (弁護士等の法律の専門家や社会保険労務士等) による相談の希望がある。一方、その他を選んだ中には現状の制度を知らないとの回答も目立った。

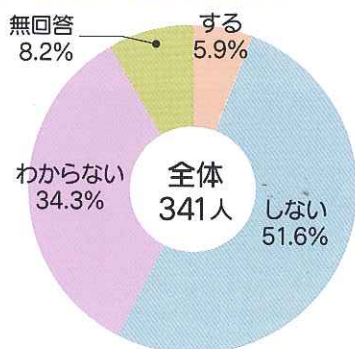
Q どんな悩みや問題点を相談したいですか (複数回答可)



■ 全体 341人

全体の64.5% (男性の68.8%、女性の59.3%) が「特に相談したいことはない」と答えている。相談の種類としては、キャリア形成に関する悩みが多いことを覗かせ (資格の取得・活かし方等)、次いで、介護についての相談希望が挙げられている (体験談も含めた情報提供や介護のための勤務時間の調整等)。その他としては、任期終了・離職後のこと、職場の人間関係、ハラスメント等の回答があった。

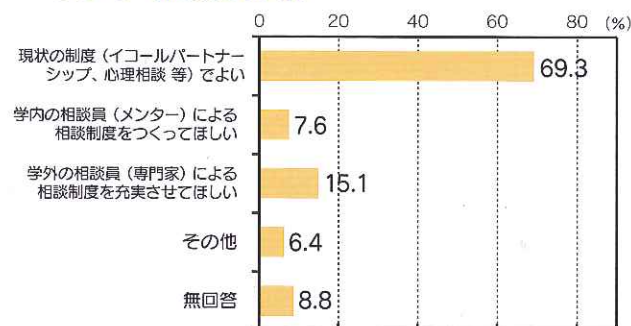
Q 学内相談員 (メンター: 相談にのってあげる人) への募集があれば応募しますか



全体の半数がメンターに「応募しない」と答えたが、5.9%の20人が「応募する」と回答した。

挟間キャンパス

Q 仕事をする上の「悩みや問題点」の相談体制について (複数回答可)

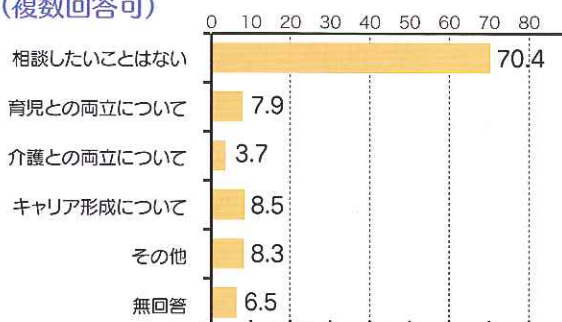


■ 全体 1222人

全体の69.3%が現状の制度でよいと答えているものの、15.1%に学外の相談員 (法律の専門家や心理カウンセラー等*) による相談の希望があった。

※なお、現状の制度でも臨床心理士のカウンセリングを受けることができます。予約受付等詳しい内容は、医学部のHP (職員向け・学内閲覧のみ可) をご覧ください。

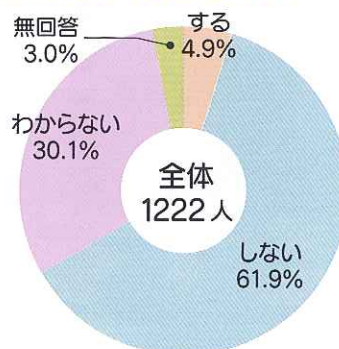
Q どんな悩みや問題点を相談したいですか (複数回答可)



■ 全体 1222人

全体の7割 (男性の74.9%、女性の68.6%) が「特に相談したいことはない」と答えている。相談の種類としては、キャリア形成についての相談希望が多く (家庭との両立の難しさ等)、育児との両立支援が続いている (育児のための勤務時間の調整や休みのとりにくさ等)。その他としては、勤務体制・超過勤務、任期付き雇用の不安定さ、職場の人間関係、ハラスメント等の回答があった。

Q 学内相談員 (メンター: 相談にのってあげる人) への募集があれば応募しますか



全体の6割がメンターに「応募しない」と答えたが、4.9%の60人が「応募する」と回答した。

Column

このコラムでは、大分大学の教職員の方に、
男女共同参画ということに寄せて思いやお考えをご自由に述べていただきます。

今回で登場いただいた方は
経済学部准教授 雲 和子 さん

先日三和酒類の外菌理佐さんを講師にお招きし、男女共同参画の学部セミナーを開催した。大学とは違った企業ならではの取り組み、またその苦勞など、内実にも踏み込んで詳しく知ることができ、興味深いものとなった。講演後の雑談の中で、女性活用には業種の特殊性ゆえの難しさがあるのではと水を向けると、「それはやり方次第です。やり方を講じれば必ず道は拓けます」と躊躇なく答えられたのが、何とも頼もしく、また印象的だった。

就労形態や時間、評価方法など、システムを女性が応じられるものに変える工夫をとということだが、形式の変化が人の意識も変えてゆくのだろう。人の意識を先に変えられたら話は早いですが、どうもそうはいかない。そして、そうした形を変える方策の最たるものが、ポジティブ・アクションである。私個人の思いを言えば、1960年代にアメリカが始めた方策を今なお模索・検討しなくてはならないこと自体、日本社会の後進性を突きつけられているようで、どうもはがゆくてならない。賛否両論あるが、倫理と深く絡まり合った性的役割にかんする日本人の意識を変革するには、結局そうした形から入らざるを得ないのかなと思う。本学に赴任したとき、「君を男として扱うよ」と申し渡された。女性として特別扱いも差別もしないというその言葉通り私はずっと平等に扱ってもらってきたが、今なら「君を人間として扱うよ」と言ってもらいたい。

意見・情報交換

第12回・第13回FAB交流会を旦野原キャンパスで開催しました(10月28日・12月6日)

10月28日(月)のランチタイムに、旦野原キャンパスの男女共同参画推進室で第12回FAB交流会(女性研究者交流会)を開催しました。

教育福祉科学部と経済学部の新任の女性教員3名を迎える9名の交流会で、松浦室長から本学での男女共同参画の取組が説明された後、和やかに意見交換がなされました。

第13回FAB交流会は、工学研究科女性大学院生を中心とする交流会で、岩切理事を迎え、工学部長、工学部女性教員、工学部男女共同参画部門委員も加わって、開催されました。

女性教員や女性大学院生から普段の勉学や研究を続けるうえでのハード・ソフト両面の不便さなど率直な意見が披瀝され、女性大学院生及び女性研究者比率の数値目標を達成させる施策を検討するうえで、非常に貴重な機会となりました。今後は、学部生にも枠を広げて交流会を開催していければという意見もいただきました。



第12回FAB交流会の様子



第13回FAB交流会の様子



第14回FAB交流会の様子

第14回FAB交流会を挾間キャンパスで開催しました(12月10日)

12月10日(火)のランチタイムに、挾間キャンパスの研究棟1階会議室で、医学科・看護学科の女性研究者交流会を開催しました。大学院生と留学生も含んだ13名の出席者でテーブルを囲みました。

小さな子供を抱えて研究を続けることの困難さや、所属の部署に先輩研究者が少なく技量修練に不安があるといった研究に関する課題、国際間での男女共同参画の比較、学内の建物の構造に女性に配慮されていない所がある等の日常の気づき、各種相談窓口の明確化や開設の要望など、様々な話題が自由に語られたひとときでした。